

かみくらがいちいせき

### 3. 上蔵垣内遺跡

所在地：坂井市坂井町五本

調査原因：国営九頭竜川下流土地改良事業

調査期間：平成 21 年 4 月 8 日～ 8 月 31 日

調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査面積：1,200 m<sup>2</sup>

時代：弥生時代・平安時代・鎌倉時代



位置図 (S=1/50,000)

**調査の概要** 福井平野北部に広がる坂井平野は県内でも有数の穀倉地帯です。永平寺町鳴鹿大堰から引かれた十郷用水など、昭和 20～40 年代に整備された水路網は現在老朽化し、周辺環境の変化から農業用水の再構築の必要がでてきました。そのため、農林水産省北陸農政局では、既設の水路をパイプライン化する事業に着手しました。この事業は老朽化した水路を改修し、用水の安定供給と農業生産性の向上、生活排水・ゴミ混入、転落事故防止などを目的とするものです。

上蔵垣内遺跡の位置する坂井町<sup>ごほん</sup>五本にはパイプライン本線から各用水路に分水するための施設が造られることになりました。

**遺構** 主な遺構には溝と井戸があります。溝は全部で 18 条あり、弥生時代の溝と平安時代の溝があります。南北方向の溝が主となります。

井戸は出土遺物が少ないのですが、鎌倉時代のものと考えられます。井戸枠などは作られず、円筒状に掘っただけの簡易な井戸です。直径は 60 c m から 1.4 m のものがあり、深さは 60 c m から 1.2 m のものがあります。井戸は湧水が激しく、掘っている最中も水が徐々に湧き出てくるほどでした。

また東側は湿地状になっていたためか、あまり利用されなかったようです。

**遺物** 遺物には弥生時代の土器と石器があります。弥生時代の石器には穂積具として使われたと考えられるものが 1 点あります。そして平安時代の須恵器は主に溝から、鎌倉時代の土師質皿と漆小皿は井戸から出土しています。全体に遺物の量は多くありません。

#### まとめ

上蔵垣内遺跡からは住居や明確な土坑などは確認されず、溝が多く集中して確認されています。人々が生活していた場所ではなかったようです。溝から出土した遺物は少なく、物を捨てたりすることがなく管理されていたものと考えられます。現在、坂井平野を潤している十郷用水は坂井町下新庄からいく筋にも枝分かれしており北方にひろがっています。上蔵垣内遺跡で確認された溝が掘られた時期をこれから考えていくと、十郷用水の古来の姿がみえてくるかもしれません。

(野路昌嗣)



上蔵垣内遺跡全景（北西から）



調査区西側溝集中区（南西から）



鎌倉時代の井戸（南から）



弥生土器と石器出土状況（南から）



井戸から出土した漆小皿